

コロンビア月例報告（6月分）

外政・内政状況

2012年7月

コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 3～5日 オルギン外相の第42回 OAS 総会（於：ボリビア）出席
- 5～6日 サントス大統領の第4回太平洋同盟首脳会合（於：チリ）出席
- 11日 南米諸国連合（UNASUR）の事務局長交代
- 13日 コロンビア・エクアドルの海域境界画定への合意
- 15日 コスタリカとの FTA 交渉の開始
- 18～19日 サントス大統領の G20（於：メキシコ）出席
- 20～22日 サントス大統領のリオ+20（於：ブラジル）出席
- 22～23日 ポルトガル首相のコロンビア訪問
- 23～25日 韓国大統領のコロンビア訪問
- 28～29日 オルギン外相の MERCOSUR 首脳会合（於：アルゼンチン）出席

【内政】

- 2日 ペトロ・ボゴタ市長による市役所幹部12名に対する辞任要請
- 2～5日 在米大使等の異動
- 12日 国家警察庁長官の交代
- 14日 ガルソン副大統領の入院
- 22日 エスゲラ法務大臣の辞任
- 28日 司法改革法案の廃案決定

II 本文

【外政】

1 オルギン外相の第42回 OAS 総会（於：ボリビア）出席

3～5日、オルギン外相は、ボリビアのコチャバンバ県ティキパヤ市において開催された第42回 OAS 総会に出席した。総会のマージンで、同外相は、チョケワンカ・ボリビア外相と、国際組織犯罪等安全保障上の課題に対応するため、外相及び国防相の出席する2+2の協力枠組を立ち上げることに合意した。

2 サントス大統領の第4回太平洋同盟首脳会合（於：チリ）出席

5～6日、サントス大統領は、チリのパラナルにおいて開催された第4回太平洋同盟首脳会合に出席、設立条約に署名した。同大統領は、太平洋同盟が共同歩調をとりながら、アジア諸国との関係を強化していきたいとの演説を行った。

3 南米諸国連合 (UNASUR) の事務局長交代

11日、ボゴタにおいて、南米諸国連合 (UNASUR) 外相会合が行われ、サントス大統領及びビルゴ・パラグアイ大統領の臨席の下、メヒーア事務局長 (元コロンビア外相) から、ロドリゲス事務局長 (元ベネズエラ外相) に交代した。メヒーア事務局長は、退任するにあたり、UNASUR の活動により、中南米地域が、「周辺地域」から、「世界の手本となる平和の地域」に高められたと総括した。ロドリゲス新事務局長は、UNASUR の課題は、貧困撲滅及び発展のための基盤作りであると述べた。

4 コロンビア・エクアドルの海域境界画定への合意

13日、エクアドル側国境付近のサン・ロレンソ港において、オルギン外相とパティエーニョ・エクアドル外相は会合を行い、二国間常設国境委員会及びマタヘ川河口二国間技術委員会による検討結果に基づき、海域境界画定に合意したと宣言した。また、本年9月、両国大統領は首脳会合を行うことに合意した。

5 コスタリカとの FTA 交渉の開始

15日、サントス大統領は、チンチージャ・コスタリカ大統領と会談を行ない、コロンビア・コスタリカ FTA 交渉開始の合意文書に署名した。同大統領は、両国の FTA 締結は、コスタリカの太平洋同盟のメンバー入りにつながると述べた。首脳会談においては、コロンビア人に対する査証免除の可能性、不法漁業等の環境問題及び組織犯罪や麻薬犯罪に関する安全保障についても話し合われた。

6 サントス大統領の G20 (於：メキシコ) 出席

18～19日、サントス大統領は、外相、財相、商工相らとともに、メキシコのロスカボスにおいて開催された G20 に、特別招待国として参加した。会合においては、持続可能な発展に関するセッションにおいて、貧困との闘いにおける食料安全保障の重要性について演説を行った。また、19日、モンティ・イタリア首相と二国間会談を行い、イタリアより、コロンビアの OECD 加盟への支持を得た。

7 サントス大統領のリオ+20 (於：ブラジル) 出席

20～22日、サントス大統領は、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロにおいて開催されたリオ+20 に出席、持続可能な開発目標 (SDGs) に関する演説を行ない、コロンビアは包摂性及び透明性に則り、SDGs 公開作業部会に参加する用意があると述べた。

8 ポルトガル首相のコロンビア訪問

22～23日、コエーリョ・ポルトガル首相がコロンビアを訪問、サントス大統領と会談を行ったほか、ペスタナ・ホテルの開所式に出席した。

9 韓国大統領のコロンビア訪問

23～25日、李韓国大統領は、コロンビアを訪問し、サントス大統領と首脳会談を行

った。首脳会談においては、貿易、投資、科学技術及び環境について意見交換を行なわれ、韓国による石油化学や石油パイプラインへの投資や地雷被害者のためのリハビリ施設支援や、軍事産業発展のための共同作業に関して合意及び進展があった。また、韓国は、コロンビアの OECD 及び APEC 加盟支持を表明した。さらに、サントス大統領及び李大統領立会いの下、ディアス・グラナドス商工観光相とパク・テホ外交通商部通商交渉本部長によってコロンビア・韓国 F T A 締結に関する共同宣言に署名が行われた。

10 オルギン外相の MERCOSUR 首脳会合（於：アルゼンチン）出席

28～29日、オルギン外相は、アルゼンチンのメンドーサ州グアイマジェン市において開催されたメルコスール首脳会合に出席した。コロンビア政府は、ルゴ・パラグアイ大統領の罷免について、パラグアイ議会が、然るべき手続及び弁護のために必要な時間をかけることなしに、ルゴ大統領弾劾を決定したことに対し、遺憾の意を表明しつつ、在パラグアイ大使を召還し、事情を聞くとの考えを示している。

【内政】

1 ペトロ・ボゴタ市長による市役所幹部12名に対する辞任要請

2日、ペトロ・ボゴタ市長は、ボゴタ市の開発計画を実施するための人事刷新が必要であるとして、局長12名に対し、辞任を要請した。現在、ペトロ市長のイメージは、肯定的が49%、否定的が51%となっており、不支持率は62%となっている。

なお、同市長は、転倒により生じた頭部の血瘤を摘出するため、18日より20日間病休を取得、ペトロ市長の不在中、アウプリージャ副市長が市長代理を務める。

2 在米大使等の異動

2日、サントス大統領は、シルバ在米大使の辞表を受け入れた。後任は未定。4日、ウンベルト・シエラ氏が、米州人権裁判所判事に任命された。5日、FARC の人質を経験したことのある政治家であるペレス氏が、在ペルー大使に任命された。

3 国家警察庁長官の交代

12日、レオン将軍が新たな国家警察庁長官に就任、167千人の警察官の頂点に立った。レオン新長官は、ナランホ前長官が5年間に築き上げた成果を強化していきたいと述べた。

4 ガルソン副大統領の入院

14日、ガルソン副大統領は、泌尿器系の感染症状があり同病院に入院し、検査を受けたところ結果は良好であった。しかしながら、18日正午にかけ、脳における酸欠症により、病態が変化、専門医で構成された医療チームにより検査及び緊急処置が行われ、集中治療室における処置を受けている。28日、人工呼吸器を外したと発表されたものの、引き続き入院中。

5 エスゲラ法務大臣の辞任

22日、エスゲラ法務大臣は、司法改革法案を巡り、国会審議が紛糾した責任をとるため、辞任した。現時点で、後任の法務大臣は決定していない。今期国会に上梓された司法改革法案は、両院における八回の審議を終了した後、両院代表によるテキストの調整を行なわれた。調整過程で、議員に対する有罪判決後の身分剥奪についての条項を変更、議員による上訴可能とする等議員に対する多くの特権が盛り込まれることとなったため、エスゲラ法務大臣が責任をとって辞任した。サントス大統領は、テキストの調整は、本来の権能を越えて加筆が行われたため、受け入れがたいと発言、その後の調整を経て、28日、同法案は廃案が決定した。

(了)